

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名： 交通と環境（2）	
日付：11月 1日（土）曜日、セッション時間：15:00～17:00	
司会者名（所属）： 宮本和明（武蔵工業大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 主として温暖化ガスの排出に係る実態分析、政策効果分析、さらには、都市分類に関する研究成果が報告された。対象は、最初の論文が宇都宮の郊外買い物交通に関する実証分析、2つ目の論文が開発途上国における排出権取引に関する提案、3つ目の論文がバンコクにおける BRT 導入の効果分析、4つ目の論文が、エネルギー消費構造に基づく世界諸都市のタイプ分類である。このセッションで報告された成果はいずれも喫緊の課題に対しての十分な成果を有しているものであり、より発展させながら国際学会においても活発に発表することについて提案があり、世界交通学会（WCTRS）の分科会である SIG 11（Transport and the Environment）の活動への参加も呼びかけられた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（67）松田隆太（宇都宮大学大学院） （Q）発生交通は実データに基づくものか？（A）そうである。 （Q）買い物交通の時間単位は何か？（A）日単位での交通である。 週や月単位では買い物パターンや購入物が異なる。それに対する配慮も必要である。 （C）売り場への物流まで考慮した環境負荷のとらえ方をとると結果が異なることもあり得るし、実際そのような観察も行われている。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（68）Tippichai Atit（日本大学大学院） （Q）途上国における分析において一般的に指摘されることではあるが、データの信頼性はどのように考えるか？（A）現状もそれほどの改善はなされていないが、論理的な分析を行うことにより、政策的な示唆は十分に与えることは出来る。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（69）金子翔一（日本大学大学院） （Q）分析単位や精度が異なるモデルが混在していると思われるが如何か？（A）最終的には精度の確認を行う予定である。 （C）ELCEL（エルセル）の適用においては考慮する範囲の定義や原単位の取り方に注意する必要がある。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（70）吉野大介（復建調査設計株式会社） （Q）政策変数が入っていないので応用可能性に限界があるのではないか？（A）政策分析までは組み込めなかったが、現状分析結果を明確に提示していることに意味がある。 （Q）特性がかなり異なる都市を同一の比較対象にしているのではないか？（A）都市分類としてはそれなりの解釈が出来る結果となっている。</p>